

日本文化の原点、伝統の継承に学ぶ 信州名匠会研修旅行「伊勢神宮を訪ねて」

信州名匠会の平成23年の研修旅行は、11月12・13日に33名が参加して行われ、平成25年に神宮式年遷宮を迎える伊勢神宮と、その準備の進む山田工作場を訪ねた。初日は、朝6時に長野を出発。県内各地で参加者を乗せ、昼前に伊勢の「古市」でただ一軒往時の面影をそのまま残し、200年の歴史がある楼閣「麻吉旅館」を見学、全員揃って趣ある座敷で昼食をいただいた。



伊勢神宮にて

1300年以上続く神宮式年遷宮を支える現代のたくみ「山田工作場」



久保氏の案内で「山田工作場」見学

午後は「山田工作場」の久保氏にご案内いただき作業場を見学した。平成24年3月に行われる立柱祭に向けて各作業場では木材の加工が進行中。140人が働くうち大工は65人、7～8人が1班で作業を進めていた。20代から60代の職人がバランス良く配置され、次回の遷宮に備え人材を育てている。使用されている木材は、木曽の檜が8割、2割が地元で育てた檜とのこと。

外宮内の広大な敷地の中には貯木場、製材場、造材場があり、樹齢300年の丸太をはじめ、3年にわたり貯木場で保管されたのち天然乾燥された材料が並ぶ。神聖な作業場の雰囲気を感じ、貴重なひと時であった。



造材場見学

萱の保管場・作業場では、今年、信州名匠会に入会した松澤智朋氏の父である松澤敬夫氏に偶然会うことができ、この場に信州の「たくみ」が働いていることに誇りを感じた。

その後、1300年余にわたる伊勢神宮の歴史を神宮徴古館、農業館で学び、日本を代表する作家の芸術作品を神宮美術館で鑑賞した。外宮を参拝した後、宿泊地「二見浦朝日館」で旅の疲れを癒し、懇親を深めた。天皇も宿泊するという貴賓室も見学することができ、実り多い一日であった。

研修旅行スナップ

二日目は、伊勢神宮内宮の垣内参拝を行った。五十鈴川で手を清めた後、神楽殿で日本の伝統芸能である神楽の奉奏、御饌の奉奠を鑑賞した。その後参道を進み、内宮の垣内に入り神聖な場の雰囲気の中、研修旅行参加者全員で参拝した。参拝の後は、おはらい町・おかげ横丁を各自散策して自由な時間を過ごし、帰路についた。



神宮徴古館で記念撮影



宿泊した二見浦「朝日館」の座敷



麻吉旅館 空中渡り廊下



「朝日館」の旧館門の前で記念撮影

研修旅行日程

- 11月12日 (土)** 長野市－伊勢 古市の町並み－麻吉旅館－山田工作場－伊勢神宮の博物館－伊勢神宮外宮－二見浦 「和亭 朝日館」(泊)
- 11月13日 (日)** 二見浦－伊勢神宮内宮－おかげ横丁－王将鮮魚センター－長野市

平成 23 年度研修旅行「伊勢神宮を訪ねて」

参加者名簿 (33名。氏名・所属。順不同、敬称略)

鎌倉良収、塩入英直、山口 茂寛・(株)鎌倉材木店、岩井秀樹・岩井工業(株)、堀誠、堀光子、小林明正、寺澤正夫・建築工房アカシア、高梨廣男・(有)高梨建築、久保尚子、久保あすか・(株)さつき苑、石田喜章・(株)石田組、金石健太、土屋直人・(株)修景事業、西宮武久・(株)綿内瓦工業、土倉希望・(株)五明、前島浅男・大工工房、宮川裕行・三ツ友建築企画、長澤和芳・(株)角藤、落合一視、落合コンサルタント、佐藤満博・(株)二見屋、川上恵一、跡部高幸・(有)かわかみ建築設計事務所、丸山幸弘・館 kan 設計工房、高木茂実・松田・南信(株)、宮澤郁夫、中澤弘明、宮下拓也、稲田貢一・宮澤建築、倉橋英太郎・(株)倉橋英太郎建築設計事務所、西澤広智、唐澤尚生、山崎研太・事務局

会員の動向

(平成23年7月～平成24年6月。敬称略)

○担当者の変更

賛助会員 (株)岩野商会
前任・笹木光治
新任・青木秀一

○退 会 個人会員

矢島健二 大工・(株)矢島工務店
今村利夫 屋根板金・(株)二見屋



井内工務店 型枠大工 五十嵐厚生さん ご逝去

信州名匠会の個人会員で、井内工務店の五十嵐厚生氏は2月25日、ご逝去なされました。享年70歳。長野市立博物館の型枠工事をはじめ、当会会長宮本忠長氏のコンクリート打ち放しの建築作品の多くに関わって名建築を生み出し、当会創生期から会員として参加いただき、多くの職人の模範として日々の仕事を通じ、会の発展に寄与していただきました。心よりご冥福をお祈り申し上げます

五十嵐厚生さんを偲んで

信州名匠会長
 (株)宮本忠長建築設計事務所 会長 宮本忠長

五十嵐厚生さんが昨年仕事場で倒れたと聞き、回復・復帰を祈っておりましたが、祈り通じずついにお亡くなりになってしまいました。まだまだ、私共の作品に携わっていただきたかっただけに大変残念です。

長野市立博物館で荒々しい打ち放しコンクリートをひとつが触れるようなやさしいディテール・表情とするにはどうしたらよいかと思案し、丸柱に目地を設けたいと施工者に相談しました。施工者も二の足を踏んだこの要望に、「面白いからやってみよう」と言ってくれたのは、井内工務店の牧さんであり、五十嵐さんたち職人でした。

故村松貞次郎先生が、「長野市立博物館」に携わったよう

な情熱ある長野県内の職人さんを「ものをつくる」という共通項で集めて、お互いに研鑽する場を作って継続してみてもという助言で始まったのが「信州名匠会」でした。五十嵐さんたち情熱ある職人がたくさんいたからこそ、この会ができて継続してこられたのです。

五十嵐さんは、いつもにこにこして、難しい相談にも乗ってくれました。また、コンクリート打ちの時には先頭に立って指揮をし、若い事務所の職員と共に一心に、良いコンクリートを打つ事に情熱を燃やしてくださいました。

五十嵐さんのような、技芸を持った型枠大工は少なくなりましたが、会員みんなが、五十嵐さんの意志、ものづくりへの情熱を受け継いでいくものと信じています。謹んで五十嵐厚生さんのご冥福をお祈り申し上げます。

合掌

信州名匠会 副会長
 株式会社 井内工務店 井内猛男



五十嵐さんの遺作となった御代田中学校の螺旋階段の前に立つ井内氏

型枠工事の先駆者である五十嵐厚生さんは、作品はもちろんのこと型枠工事の技能・技術の継承にと後継者の育成にもしっかりとした功績を残されました。

病に倒れたのは、奇しくも宮本会長が設計された御代田中学校のメイン階段の細工中でありました。

円ではない、螺旋階段の型枠に技をふるい、信州名匠会の発足に至った長野市立博物館の匠の思いに名人として力を出していたところでした。

昭和43年に井内工務店創業者故井内八雄に弟子入り。まだ長野県下ではコンクリートの建物がほとんどないころから、関東～信越で型枠工事の先駆者として歩み、妥協は絶対に許さない、認めない、不屈の精神力で40年余り、一線で活躍されました。

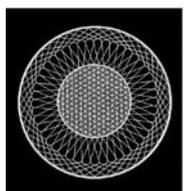
特に一級型枠施工技能士を昭和51年に取得され、その後は技能検定委員として貢献しました。

さらに、平成21年5月27日に国土交通大臣顕彰を受賞され、建設マスターとして技能・技術の継承に努力され、日々進歩する技術の練磨のため、一筋に精進されました。

我々は、これからも五十嵐厚生さんからの継承した技能・技術を、後世に残していかなければなりません。五十嵐厚生さんのご冥福をお祈りいたします。

中村光敬氏「木のデザイン公募展 2011」に入選

会員の中村光敬氏（(有)中村木工所、千曲市）は、(財)脇田美術館主催「木のデザイン公募展 2011」に「壁飾組子」を出展、特別賞を受賞しました。



展示された壁飾組子



会員にきく
「たくみの仕事」Vol.21

四季の移ろいが映える雑木主体の 自然風庭園を、信州小布施から発信

株式会社さつき苑（小布施町） 代表取締役 久保敏幸氏

profile●昭和24年10月26日生まれ、62歳。小布施町出身。小布施町並み修景事業一帯の緑化部門、善光寺東庭園、最近ではデザイナーの水戸岡鋭治さんと組んだJR博多駅ビル屋上庭園、小布施鈴花庭園など活躍の場を広げている。



本社にて。恩師小形氏の近影を掲載した小形氏の作品集を前に

や飯田十基氏だ。「滝の流れや海の州浜を庭の中に修景する。自然を取り込む雑木主体の自然風庭園を広めた」。

自然の庭の作庭方法を学び、小布施町に戻ったが当初はギャップに戸惑ったという。数年は苗木販売等もした。その後、市村家の仕事や当時小布施町の修景に取り組んだ宮本忠長氏（当代会長）の仕事などを通して、現在に至る礎を築いた。

「当時、日中は仕事をして、深夜トラックで県外へ材料を買いに行くなど、がむしゃらだった。女の子を4人授かったが、子育てはわたしの父母に任せきりだった。そんな親を見て育ち、現在3人は入社して父の跡を継いでいる。聞くゆとりを忘れず、細かいコミュニケーションを大事にしていきたい」。

久保さんは須坂園芸高校の造園科を第一期生として卒業すると、上京して小形研三氏に師事し、技術習得に励んだ。

「一切機械は使わない。セメントを練るにも、あえて使わなかった」。そう振り返る。どんな事にも人海戦術で工夫してやりとげ、今では珍しい三又（サンマタ）や、そり（木製のそり）で運ぶ等していた。植木の搬入も全てかつぎで、人間の肩でかつぎ棒を使い運んでいた。生半可なことじゃないけど、当時は何とも思わなかった。例えば、池や流れを造るときも20人位で作業し、掘った土をわずかな時間で10t車に山盛り一杯にする様な作業で、築庭するのが普通だった」。

「小形先生のもとには、全国各地から、海外から、その頃で60～70人位の弟子が修業していた。毎日の現場が20ヶ所位動いていて、石組みや植栽の時には、先生が『この木はそこだ』と言うと。生徒がパッと植えて、『どうですか?』と聞く。『よし!』『これは?』『そこだ!』『これは?』『そこ』『ちょっとこっち』『そこだ』と。パッパッパッと、20～30人が一気に動いて築庭し、施主さんからは小形学校と呼ばれていた」。

現在、全国海外を含め200～300人のOBが第一線で活躍している。

日本の庭園は京都が本場。大名や公家だけが庭を造った。抽象的、宗教的な表現のそうした庭に対して、「自然風」を提唱したのが小形氏



自宅・本社前で、長女の美津季さんと

定例研修会●Report

(平成23年12月～平成24年4月)

平成23年度第5回研修会 【「明治の洋風建築」旧開智学校と山辺学校見学会】

平成23年12月17日

講師：降幡廣信氏 ((株)降幡建築設計事務所、当会副会長)

参加者：20名

西洋建築と和の融合に挑んだ先人に学ぶ



開智学校にて説明をする降幡先生

当会副会長、降幡廣信氏の案内で、松本市の旧開智学校と旧山辺学校を見学させていただきました。

棟梁立石清重が新しい時代を象徴する建物として見よう見まねで造った開智学校は、明治8年に建てられた擬洋風の建物として極めて特徴的だ。

玄関にバルコニーがある建築は、それ以前には日本に存在しなかったという。その屋根部分には伝統的な唐破風を用いている。表面を塗装する西洋建築に対して開智学校は塗装しながらも木目を模様にしたリ、外国から輸入したガラスを装飾に使い「ギヤマン学校」と呼ばれるなど装飾過剰な部分も見て取れる。「その異様なたたずまいに、完成時、目の色を変えた父兄の姿が思い浮かばれる」(降幡副会長)。

開智学校の10年後に宮大工の佐々木喜重によって建てられた山辺学校も同じ擬洋風ではあるものの、社寺風の玄関や屋根、壁など、開智学校よりも「和」の趣きが強い。

明治5年に学制が発布され、全国各地で小学校が建設されることになった。開智学校が建てられた明治8年には筑摩県内に656校の小学校があった。就学率は71%で、設置校数、就学率とも全国1位だったそうだ。

寺子屋が西洋建築の学校に変わり、「教育県」を象徴した開智学校。山辺学校との対比によって、その特徴がより浮き彫りになった。

「それより前にも以後にも、そこに見られる特徴がほかで使われなかったところに面白味がある。近代日本のスタートとなった明治時代を振り返って仕事をしたい」との降幡福会長の言葉が深く心に残った見学会だった。



山辺学校 2階教室で降幡先生講義

平成23年度 【新年会】

平成24年1月18日(水)

ホテル犀北館

参加者：35名

信州名匠会のあり方をみんなで考える年に

本年は、会場を犀北館に移し信州名匠会新年会が行われ、会員同士が親睦を図り一年の抱負を語りあった。降幡副会長の年頭のあいさつでは、かつて名匠会の会合で、故村松貞次郎先生から村野藤吾先生を例に励まされたエピソードを紹介され、「今年も前進あるのみ、自分も村野先生より一年でも長く頑張る」と会員にエールを送った。

会場では、欠席された村越先生から送られた「上州高崎だるま」と「籠の張り子」が会員全員に渡され、今年を良い年にすることを祈念した。

また、昨年入会された、クロサワメタルの黒澤忠氏に抱負を語っていただき、会員それぞれに懇親を深め、今年の希望を語り合った。



和やかに語り合って親睦を深めた

最後に土本副会長から、「どういう人達がいれば良いものが創れるのかが重要となり、人づくりが名匠会の大きな目的となる。若い人に志を伝えよ」と締めくくった。

平成23年度 第6回 研修会 【「ものづくりにおいて大切にしていること」】

平成24年2月23日 宮本忠長建築設計事務所

参加者：21名

講師：坂田 守夫氏 (坂田工業(株)、当会専務理事)

参加者：27名

基礎習得の大切さと

「仕事は施主のため」という本質の確認を

今回の研修会は、当会専務理事の坂田氏から、「平成23年度職業能力開発関係厚生労働大臣表彰 技能検定関係功労者」の受賞に至る坂田氏の経験談等貴重なお話を聞かせていただいた。

会の冒頭、テレビ電話により宮本会長と久しぶりに出席者が対面し、それぞれの近況や会のことについて久しぶりに話をする事ができ、会長から「信州名匠会」の活動の大切さ、そして今後の会員の活躍への期待が語られた。

坂田氏は、30年以上の長年に渡り長野県の「技能検定委員」を務めてきた。防水の職人は、釜番だけでも5年、一人前になるのに



坂田氏の話に聞き入る会員

最低10年はかかるという。検定員を続けてきて改めて思うことは、防水工事において基礎が大変重要で、今の業界の問題はその大切な基礎を教えられていないことだという。

最近、塩ビシート防水等さまざまな防水の採用が増えているが、施工性や価格等施工者の尺度で施工方法を決定するのでなく、施主のために仕事をするという本質を忘れないことが大切だと語られた。

平成23年度 第7回 研修会 【「現代・明治の学校建築」 御代田中学校と旧中込 学校見学会】

平成24年3月24日(土)

御代田中学校

参加者：19名

明治から現代へと連なる職人の心意気



ボランティアガイドのご案内で「旧中込学校」を見学

第5回研修会で見学した旧開智学校、旧山辺学校に続き、佐久市にある明治期の建物「旧中込学校」を見学した。当日は昨年完成したばかりの御代田中学校も訪れ、時代を代表する新旧の学校建築を堪能した。

旧中込学校は、アメリカで建築を学んだ棟梁の市川代治郎によって明治8年に建てられた。八角形の塔や玄関のバルコニー、窓のステンドグラスなどが特徴的な擬洋風建築だが、開智学校と比べて和の印象が強い。大工の日当が25銭、4日働いて1円の時代に総工事費6098円余を各戸が1円ずつ寄せて建てたという。教育にかけた村民の熱い思いを知らされる。

当日はボランティアガイドの方に案内していただき、普段は見ることのできない太鼓楼の内部も特別に見学することができた。

御代田中学校は、環境への配慮を随所に取り入れたエコスクールで、宮本忠長建築設計事務所が設計監理を担当。当会の会長宮本忠長の最新作だ。

校舎棟には外断熱やペアガラスサッシュを採用して熱損失を低減したほか、共同調理場には太陽熱給湯設備を導入。小諸藩が植えたというカラマツなど県産材を多用し、環境への配慮にこだわった。

共同調理場の電力は基本料金の低い産業用電力を使用し、校庭の照明器にはLEDを採用するなど、維持管理コストを抑える工夫もこらしている。

建物は、敷地の高低差



御代田中学校の玄関前で記念撮影。昇降口天井部は地元産の「信州カラマツ」材が使われている。

周辺環境を読み取り階段状の中庭を中心に巧みに計画され、生徒の動きがどこからも感じられる豊かな空間となっている。そして、教室棟北側バルコニーからの浅間山の素晴らしい眺めは、生徒達の心の心象風景として深く心に刻まれることだろう。

「まるで龍神まつりの龍のよう」と町民から評された3次元の曲線を描くシンボリックな階段は、井内工務店の五十嵐厚生さんが施工を手掛けた。奇しくもこの階段が五十嵐さんの遺作となったとの報告が井内副会長からあり、階段の前に皆で黙とうを捧げた。あらためて、合掌。

平成23年度 【理事会】

平成23年度 第1回理事会

平成23年10月26日(水)

宮本忠長建築設計事務所

出席者：理事10名 事務局3名

平成23年度 【理事会】

平成23年度 第2回理事会

平成24年4月18日(水)

宮本忠長建築設計事務所

出席者：理事11名 事務局2名

平成23年度 第8回 研修会 【雪しろ窯 陶芸教室】

平成24年4月28日(土)

講師：村越久子氏

(上田市武石、雪しろ窯主宰、信州名匠会顧問)

参加者：16名

元気になられた村越先生と共に



屋外で昼食。自然を満喫。

村越先生の体調が心配されましたが、恒例の陶芸教室が予定通り行われた。今年は天候不順で桜の開花が遅れたため、連休初日のこの日、ちょうど天候に恵まれた快晴のもと桜が満開となった。村越先生の発案で、屋外にテーブルを出し満開の桜、芽吹きを眺め、依田川せせらぎの音を聞きながら、参加者みんなで楽しく昼食を戴いた。

昨年続き、「ろくろ」に3人が挑戦。泥まみれになって悪戦苦闘、なかなか思うようにいかないながらも思い思いの作品が出来上がった。また、それ以外の参加者も、事前に構想を練り図面を書いて来た者もあり、村越先生とスタッフの皆さんに教わりながら陶芸に没頭し、それぞれ無心にものづくりの楽しさを感じながら2時間ほどでそれぞれ個性

的な作品の形ができていった。この後2ヶ月かけて乾燥、色付け、焼きをしていただき完成した作品が総会の会場に展示さる。参加者はどんな作品に焼きあがるか楽しみにしている。



考えてきた設計図を基に先生方と相談する会員